

現代における日本の釣りの問題点とその解決策

The problems of Japanese fishing and their solutions on present-day

1K04A245-3

山田 竜太

指導教員

主査 太田章先生

副査 寒川恒夫先生

序章

釣りは日本人にとって、代表的な趣味でありスポーツである。筆者も幼少期に海釣りをしたのをきっかけに、それ以来釣りに没頭している。日本は豊かな海に恵まれており、釣りをするのに最適な環境にある。そのため、海沿いの堤防などへ行くと、必ずといってよいほど釣り糸を垂らす釣り人の姿をみることができ、沖合いでは船釣り、岩礁地帯では磯釣り、浜辺では投げ釣りとはさまざまな釣りが行われている。

このように釣りは人気があるが、現在多くの問題を抱えている。魚を釣ったり漁獲したりする技術が進み、水産資源の乱獲による枯渇が起こってきた。さらに釣り人や漁業者、遊漁船業者などによる釣果主義や営利主義がこれに追いつけをかけている。水産資源の枯渇問題は釣り人の釣果にも顕著にあらわれてきており、このままこの状況を放っておけば、魚が釣れないという状況に陥り、釣りが成り立たなくなってしまう。また、この他にも釣り人のマナー問題もあり、これも早急に解決していかなければならない。

本論文は、現代の釣りが抱えている問題の提起と、問題の解決策について考察することを目的とした。また、本論文での釣りは、特に断らない限り海釣りのこととする。なお、本論文は主に文献研究によるものとする。

第1章 釣りの現状とその問題点

日本は、魚を食する文化を有しているため、ほとんどの場合、釣り人は釣れた魚を持ち帰って食する。また、魚は漁獲されるまで誰のものでもなく、獲られて初めて所有権が生じる。したがって、我先にと争って乱獲による水産資源の枯渇に陥りやすい。また、釣具の技術的な向上や、遊漁船による釣りの発達もその原因である。さらに、これに漁業による漁獲も加わり、水産資源の乱獲が発生しているのである。また、この他にも、ゴミ問題に代表されるような釣り人のマナー問題もあり、釣り人は最低限のマナーは守らなければならないだろう。

第2章 遊漁船業とその問題点について

遊漁船を利用した釣りは、現代の釣りを代表するものである。船頭が釣り人を魚が多くいる海域へ案内し、釣りをさせるというものである。このため釣獲量も多く、水産資源の乱獲が起こりやすい。また、遊漁船業を営んでいる業者側の収入も多く、商業的な部分が多い。そのため、現代の釣りの状況や問題が集約されている。この章では、遊漁船業の経営やその問題点についてみていくことにした。

第3章 漁業による水産資源への影響と遊漁としての釣りと関係

水産資源の乱獲は、遊漁としての釣りも原因となっているが、それ以上に漁業によって引き起こされていることを見落としてはならない。遊漁と漁業は、前者は遊びで、後者は仕事でといった人間側の立場の違いはあるが、水産資源を獲るということにおいては同じである。漁業も水産資源の乱獲による枯渇という問題に直面しており、持続可能な漁獲をしていこうという動きもみられるようになってきた。ここでは漁業を中心として、乱獲問題とその対策のあり方についてみていくことにした。

第4章 釣りに関する問題の解決策の考察

水産資源の枯渇は著しく、遊漁者の側からも何らかの対策を講じていかなければならない。少し前には、日本でも資源枯渇防止のために、キャッチアンドリリースをしようということが主張されたが、この動きは、現在衰退してきており、別の対策を講じていかねばならない。筆者は遊漁者の立場から、特に、種苗放流と釣り禁止区域の設置を挙げたい。しかし、対策を実行するためには、漁業者、遊漁者、遊漁船業者などのそれぞれの立場をよく理解したうえでの行政の協力が不可欠である。

国民の共通の財産である水域は正しく管理されていかなければならず、行政が中心となって解決へ向けて問題に取り組んでいかなければならない。今後、ずっと釣りを楽しんでいけるように、釣りをとりまく問題が少しでも解決されていくことに期待したい。